

● CSRハイライト

新たな価値を創造する画像処理技術

得意な分野で何が出来るかを考え実践することで、持続可能な社会への貢献を目指します。

カシオだからできる、という研究開発とは何か？そのひとつ、デジタル画像処理技術の取り組みをご紹介します。

ビジネスショット

自動的に書類を認識してまっすぐに



研究開発から発信する CSR実践活動

研究開発部門では、カシオ創造憲章の「私たちは、独創性を大切に、普遍性のある必要を創造します」・「私たちは、社会に役立ち、人々に喜びと感動を提供します」というステートメントにうたわれるように、研究開発はCSRを実践する源流にあるのだ、と考えます。

研究開発部門の実践活動における二つの働きかけ

研究開発部門は、社内へ対して「企業力」「ブランド力」をアップし、競争優位性の確保とその継続のための働きかけを、そして社外に対しては、商品や技術開発を通じて、信頼や信用を確保し高めていく継続的な働きかけをしています。

研究開発活動にある「信頼」に応えるもの

「安心感」や「満足感」の向上は「信頼」に応えるキーワードと考えます。

製品に対して誰もが抱いている、あるいは気づいていない不満や不安を、ステークホルダーとの相互作用を通じて探り出し、充実した「機能」や「サービス」を提供することによってカバーしていく。更に、ステークホルダーが「頼りにする」「期待する」「望みを満たす」形へと進化させていきます。

これらは研究開発から発信するCSR実践活動であると考えます。

サステナブル・テクノロジーの研究開発

カシオは、これまで、国や民族、言語や宗教等の文化を超えた世界同一品質の省資源・省エネルギー製品を開発してきました。

地球規模での技術開発、すなわち、サステナブル・テクノロジーによる、地球環境に優しい、新しい文化を創生する製品作りは、まさにカシオのこれまでの研究開発の姿勢の延長線上にあり、カシオのもの作りの使命と考えます。

カシオのサステナブル・テクノロジーの一例として、画像処理技術をご紹介します。

画像処理技術

画像処理技術は、デジタルカメラを構成するコア技術です。画像・映像の圧縮、編集、認識等、従来の銀塩カメラにない技術によってカメラの使い勝手の向上と新しい用途展開が可能になってきました。

●使い勝手の向上

従来のカメラは、ピンボケや手振れ、逆光など、使いこなすにはテクニックの必要な不安の多い商品でした。

カシオは、独自の画像認識技術により、動きのある被写体でも自動的に焦点を合わせて追尾しながら撮影できる「自動追尾AF」機能や自動追尾しながらフレーム中央に置いて撮影する「オートフレーミング」機能、更に独自の「手ブレ・被写体ブレ軽減」機能、「ビジネスショット」機能や「よみがえりショット」機能などの技術開

発をしてきました。これらの画像認識技術や手ブレ補正技術によって飛躍的に誰でも安心して使えるようになりました。

●新たな用途展開

カメラは、イベントや思い出を撮る道具という色彩が強いものでした。しかし、画像処理技術の進化は、日常生活における「美しさ」や「感動」の決定的瞬間を記録するに留まらず、ビジネスシーンにおいても通信機能による画像送信、情報収集や編集加工等の手段として画像処理技術のよさが活かされていきます。カシオは画像処理技術についてカメラの性能向上はもとより、目的とする仕事の効率や質を高める視点から画像処理技術を進化させる研究開発を行っています。

●技術革新と技術移転

カシオは、数字、時間、音楽、文字、映像のデジタル化技術により時計や楽器などの独創的な商品を開発してきました。画像処理技術はカメラに集約され、更に進化して携帯電話の標準機能となりました。画像・映像のデジタル化は、今まで当たり前と思っていた道具に「カメラ」や「画像処理技術」を備えることによって全く新しい価値の提供や機器の創造に結びつく可能性を秘めていると考えます。

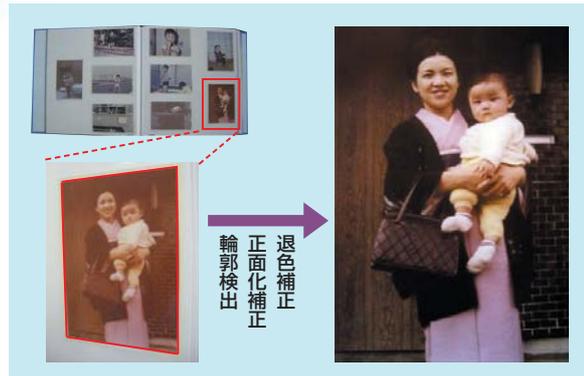
私が紹介しました

研究開発部門での開発は商品に縛られず、応用を利かせることが出来ます。画像処理はデジタルカメラや携帯電話、ハンディターミナル、工場から自動車まで、カメラを搭載するあらゆるものへ広がっていく点が魅力です。



開発センター 第二開発部
牧野 哲司

よみがえりショットでアルバムの写真を電子化



アルバムに貼ったまま撮影すれば、輪郭認識して正面に補正、更に古い色あせた写真も鮮明化!

自動追尾AF、オートフレーミング



動く被写体に自動的にピントあわせ！なおかつ、被写体を中心に自動切り取り！